

記者発表（発表・資料配布）

月 日（曜日）	所 属	電 話	発表者名 （担当課長名）	その他配布先
9月21日（木）	阪神北県民局 県土整備部 三田土木事務所 （河川砂防課）	079-562-8882 （直通）	所長 三隅文彦 （三宅昭仁）	

武庫川上流ルネッサンス懇談会の開催について

- 武庫川上流に位置する三田市域では、過年度からニュータウン開発にあわせて、治水面に力を入れた改修を積極的に推進してきた結果、人々は川を危険なものとして遠ざけてきました。
- 市内の川は流れが緩やかで、豊かな自然環境が多く残されているにもかかわらず、この自然の資源が人々の生活の中で十分活かされていない状況にある一方、近年、河川環境の保全が治水や利水と同程度に川づくりにとって重要であり、さらには地域住民の意見を反映しながら保全していくことが重視されるようになってきました。
- これまでも、三田土木事務所では、青野ダムに多自然型魚道を設けたり、藍本地区日出坂に環境に配慮した床止工を設置するなど、県民の参画を得ながら議論を進め、先進的な工事を協働のもと展開して参りましたが、このすばらしい自然の資源である三田市域の川への関心をさらに醸成し、活かしていくため、「知ろう、活かそう、三田の川」プロジェクトを立ち上げ、先般、小学生の夏休み期間の川遊びなどの企画を新たに実施したところです。
- 今回、「知ろう、活かそう、三田の川」プロジェクトの一環として、有識者や地域住民、行政から構成される懇談会を設立し、自然再生と積極的な利活用をめざした川づくりについて話し合い、これら意見を河川工事に反映することを目的とした、「武庫川上流ルネッサンス懇談会」を設立しました。
- なお、今後、この「武庫川上流ルネッサンス懇談会」を河川愛護などの地域活動の支援、情報交換の場として活用するなど協力関係を築くとともに、河川や他分野の専門家、川に造詣の深い地域の活動家などとの連携強化をさらに推進していくこととします。

記

1. 第1回武庫川上流ルネッサンス懇談会について

平成18年8月25日（金）兵庫県人と自然の博物館大セミナー室にて、第1回懇談会が開催され、座長及び各委員の選出、設立趣旨の確認、懇談会の進め方と今後のスケジュールなどについて話し合いが行われました。（委員名簿、議事要約は別紙1、2のとおり）

2. 第2回懇談会（現地視察会）の実施について

市内の河川の現状を踏まえ今後の議論を展開していただくため、現地視察会を実施します。

※ 座席に余裕がございますので報道関係の方もご参加頂けます。

【開催日時】 平成18年9月24日（日） 午前10:00～午後5:00（午前9:30より受付）

【集合場所】 人と自然の博物館 駐車場

【視察場所】 日出坂洗いぜきほか（行程は別紙3のとおり）

3. 問い合わせ先

三田市天神1丁目10番14号（兵庫県三田庁舎）

阪神北県民局県土整備部三田土木事務所 河川砂防課：三宅、太田

TEL 079-562-8882 FAX 079-562-8243

武庫川上流ルネッサンス懇談会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏名	所属・役職名	分野
おおの ともひこ 大野 智彦	京都大学大学院 地球環境学舎 博士課程	河川政策
かじき よしかず 加治木 義和	三田市立 狭間小学校 理科教諭	小学校の環境学習
きむら まさゆき 木村 公之	NPO 法人 人と自然の会	三田の自然
くご ひでよ 久後 英世	三田野鳥の会 事務局長	鳥類
こさか しんや 小坂 真也	県立 有馬富士公園管理事務所 職員	住民参画
たにくち せいじ 谷口 誠司	(社)兵庫県自然保護協会 自然観察指導員	川を活かした地域活動
たにもと たくや 谷本 卓弥	NPO 法人 野生生物調査研究する会	水生生物
なかむら しのぶ 中村 忍	まちづくり三田	三田市のまちづくり
(座長) ひきの たけし 久野 武	関西学院大学 総合政策学部 教授	環境政策
ふくにし ふみひこ 福西 文彦	(社)三田青年会議所 副理事長	三田市のまちづくり
まつした かずみ 松下 和実	日出坂せきもりの会 代表	川を活かした地域活動
みつはし ひろむね 三橋 弘宗	県立 人と自然の博物館 主任研究員	河川生態学
やすだ ひろき 安田 博樹	JA 兵庫六甲 三田営農総合センター センター長	三田市のまちづくり

【事務局】兵庫県 三田土木事務所

第1回武庫川上流ルネッサンス懇談会 開催結果概要

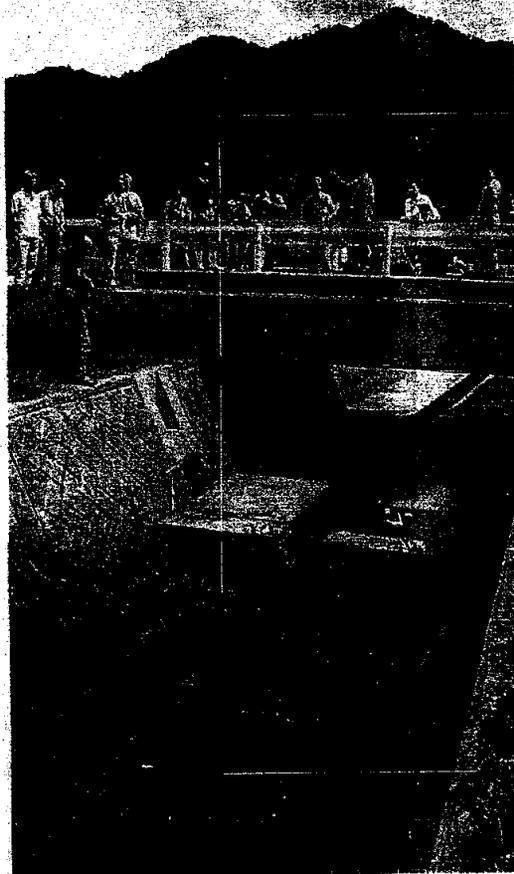
日時：平成18年8月25日(金) 19時から21時

場所：県立人と自然の博物館 大セミナー室

- 三田土木所長： 本日は、皆様、大変お忙しいなか、当会議にお集まりいただき、また、先立ちまして、委員に就任をお願いしましたところ快諾をいただきまして、本当にありがとうございます。本日、ご参会の皆様方の熱意とお知恵を借りることにより、三田土木事務所といたしまして、川を活かした地域づくりに貢献できたかと思っております。今後とも、このプロジェクトをぜひともご支援いただきまますようお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。
- 座長(久野)： 武庫川について何か意見を言おうと思っても、わざわざ土木事務所に電話をするのもちょっと言いにくい。そこで、こういう懇談会ができて、できれば委員の皆さんだけではなく、川に関心のある人がどんどん来てくれて、積極的に意見を言ってくれば良いと思います。まずは、話し合うところから始まるのではないかと思います。
- 三橋委員： 三田の住民が、三田の川はどこまで遊べて、どんな素材があるのかということを知っていただくことができればいいのかなと思っております。
- 松下委員： 今後、いろいろな提案や活動をしていくにあたって、もっとたくさんの生命がいる自然豊かな川をつくるのが、将来の子供たちにとっても大事なことであるということが、伝えられていくことが大事だと思います。
- 三橋委員： 治水の問題や自然再生、川遊びができる箇所などをどうやってつくってきたかというのも、三田では知られている事例がごく僅かですので、全国のいろんな事例を肌で感じて知っておられる方に説明していただく講座形式の勉強会を、是非、開催してみたいと思っております。三田の事例も、きょう来ていただいた方に講師になって紹介して、一般の方が聞いて、「あ、何か三田の川にいついっぺん行ってみたいな」とか、「日出坂というのは全国に誇る環境で、活動の場所なんや」というようなことを、住民の方に知っていただければと思います。
- 木村委員： 川の写真コンテスト、中でも、撮影者が何を言いたいのかということがよくわかるので、三田の川の「良いところ」と「悪いところ」を組写真の技術を駆使して、一つのテーマで「〇×」というような応募をすれば、もっと三田の住民の川に対する意識が深まると思えますね。
- 加治木委員： 「川に子供だけで近寄ったらあかん」というのはどこの学校でも言っているため、「みんなで川を使おう、活かそう」という講座をしていただいたら親子で参加できるということです。しかし、イベントで終わってしまったらだめですね。「面白いなあ」ということで、また親子連れでもう一回、行ってみるとか、また別のところを調べてみるというようなりピートというのが大事なんじゃないかなと思います。
- 久後委員： 20年ほど前になりますが、カヌーで武庫川を下ってきたことがあるんです。河川改修が済んで水位も減っていたため、半分以上は引っ張らないと進まないような形でしたが、水の中から見る景色というのは、違うものがありますし、そういう親しむ方法も検討されてはどうかと思います。
- 中村委員： 遊びから入って、いろんなことを学ぶというのが、一番いいと思います。
- 松下委員： 「川ガキ講座」よりも「川ジジ講座」をやって(笑)川ジジ、川ババをまずつくって、そしてそこから川ガキを養成する。だから、保護者の方も非常に忙しいし、ついていくわけにいかない。でも、安全に遊ぶためにはやっぱり大人がいらないといけませんから、そういうことができれば一番いいと思います。
- 三橋委員： これを契機に、例えばJCさんとうちの博物館とでカヌーをやるとか、場合によっては源流の飲む水の「名水探し」をやるとか、そういう形で土木さんが発端となって今後、続いていくような活動につながるということが大きい目標なのかなと思います。持続可能な懇談会の形を考えると、この大きい目的だと考えさせてもらったらよろしいですね。
- 事務局： 本日は、貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。この懇談会は、まだ始まったばかりでございます。今年度の推進内容としまして、大体月1回ペースというところでいろんなことを話していただければ、ありがたいと思っております。
- 座長(久野)： 本日はどうも2時間、熱心な議論をありがとうございました。まだ始まったばかりですが、次は9月24日ということで、今度は現地を見ながら皆さん方と活発な議論を交わりたいと思っております。それではどうも本日は皆様、お疲れさまでした。

「上流ルネッサンス懇」が現地視察

武庫川 私たちの川



コンクリートで造られた川を見る「武庫川上流ルネッサンス懇談会」の委員たち三田市小栢で

三田市内を流れる武庫川を子どもや市民により広く親しんでもらおうと「武庫川上流ルネッサンス懇談会」が結成された。その第1回現地視察会が24日開催され、メンバー約20人が武庫川に沿った市内7カ所を見て回った。小学生が川を学ぶ教室のため、堤防に階段を設ける案などが出された。懇談会を企画した県三田土木事務所は「出来のよい河川の手直し」として

川の利用はこれまで治水や利水に比重が置かれ、川に親しむ「親水」の面は遠ざけられてきた。しかし、近年は河川環境の保全が治水などにも増して重要と考えられるようになった。一方で、三田市内を流れる武

庫川はまだ上流域だが、あたかも普通の川の下流のように流れが緩やかで、各所に貴重な生物が観察されている。こうしたことから、同事務所は「知ろう、海かそう、三田の川」プロジェクトを立ち上げ、その

ひとつとして地域の住民や有識者と同懇談会をスタートさせた。8月下旬に開催された第1回懇談会では、小学校の理科教師や三田野鳥の会のメンバー、県立人と自然の博物館の主任研究員、川を生かした地

子どもらの「親水」へ提案

域活動に取り組み入ら13人が集まり、懇談会の座長に久野武・関西学院大教授(環境政策)が選ばれた。現地視察では、千刈水

源池を経て武庫川に流れ込む羽束川沿いの同市下里や小栢付近、日出坂の武庫川で環境に配慮した工法で造られた「日出坂洗堰」などを見て回った。下里の羽束川では、養魚の一人から「子どもたちが川の学習をするのに

河原へまよまよと降りられる階段が難防であるといふ」などの意見が出た。また、小栢のプロ谷川付近では10年ほど前の砂防工事で作られた魚道に岩を置いて魚のすみかを作るといふという提案や、プロ谷川から羽束川

へ流れ出る付近に砂などが積もる水流となつていない箇所が指摘された。同土木事務所は、提案に基づいて今年度から「子ども時間」を設けて、子どもや時間をかけて観察する機会を設けたいと、実施を考えているという。

平成18年度 プロジェクト実施内容

第1回フォトコンテストの開催

- ◆三田の川の「良いところ」「良くしたいところ」をテーマに作品募集
 - ・応募数32作品
 - 【18.11.1～19.1.31】
- ◆デジカ教室の開催
 - 於：人と自然の博物館
 - ・参加者37名
 - 【18.11.23】
- ◆作品展の開催
 - 於：人と自然の博物館
 - ・入賞作品30作品
 - 【19.3.18～19.3.31】

情報発信ツール

(冊子・ホームページ)の作成

- ◆GISを利用した「三田の川利用マップ」(ホームページにて河川情報を発信、収集)
- ◆「三田の川なるほどフィールドノート」(三田の川に関する生物や施設などの情報)
- ◆平成18年度「知ろう、活かそう、三田の川プロジェクト」の概要紹介
- ◆第1回フォトコンテスト入賞作品の掲示

もっと知ろう科、川講座の開催

- ◆自然再生に関する基調講演
 - ・山道省三氏(全国水環境交流会)
- ◆自然再生先進事例の紹介
 - ・横山正氏(千種川清流づくり委員会)
 - ・上田豪氏(寝屋川ワークショップ)
 - ・中条武司氏(大阪市自然博物館)
- ◆パネルディスカッション
 - ・山道、横山、上田、中条各氏、人と自然の博物館三橋研究員
 - 於：人と自然の博物館
 - 【19.3.18】

武庫川上流ルネッサンス懇談会



意見反映

分析・考察

意見反映

意見反映

情報公開

分析・考察

意見反映

意見反映

検討案の提案、整備案の策定

- ◆武庫川本川(エルム橋下)の自然再生や県民活用に係る検討案の提案
- ◆武庫川支川(羽束川、池尻川)に生息するオオサンショウウオ、ホタルに配慮した河川整備案の策定

ふるさと桜ウォーク

- ◆武庫川桜づつみ回廊スタンプラリー
 - 於：花の道、武田尾(宝塚市)、川除(三田市)
 - ・応募者250名
 - (阪神北県民局主催)
 - (民間から景品提供)
 - 【18.4.1～4.23】
- ◆武庫さくら回廊ウォーク
 - ・参加者1,300人
 - ・JR藍本駅～青野ダム(健康コースは三田駅)まで
 - (三田市観光協会主催)
 - 【18.4.9】

川ガキ養成講座

- ◆エルムの川「川ガキ養成講座」
 - 於：三田市西野上「エルム橋下」
 - ・参加者24名
 - (人と自然の博物館共催)
 - 【18.8.5】
- ◆日出坂洗いぜき「川ガキ養成講座」
 - 於：三田市藍本「日出坂洗いぜき」
 - ・参加者22名
 - (日出坂せきもりの会共催)
 - 【18.8.19】

地域に親しまれる
三田の川をめざして

・河川の関心向上
・基礎知識向上

・河川の利活用促進
・維持管理促進

魅力発掘

川づくり

利活用促進